

令和6年度 土砂災害防止功労者表彰者 一覧

【個人】

| 推薦団体 | 氏名 | 表彰基準 | 功績概要 |
|---------|---------------------|----------------------------------|---|
| 関東地方整備局 | 香月 智 (元防衛大学校副校長) | (7) 研究、発明 | <ul style="list-style-type: none"> ●防衛大学校において、砂防学に関して多数の研究業績をあげられ、特に鋼製砂防構造物について長年にわたり研究され、その知見は鋼製砂防構造物の設計手法に大きく貢献されている。 ●鋼製枠砂防構造物の中詰材のせん断抵抗力に関する研究により、中詰材のせん断変形に対する抵抗性を検証するための推定式を提案した。この推定式は、鋼製不透型砂防堰堤の安定性を検証するための手法として、鋼製砂防構造物の設計資料として多く活用されている「新編・鋼製砂防構造物設計便覧」にも記載されており、鋼製不透型砂防堰堤の設計に多大に貢献されている。 ●平成26年7月9日台風第8号により長野県木曾郡南木曾町読書地区(梨子沢)において発生した土石流をうけて国土交通省が設置した「梨子沢流域砂防堰堤に関する検討会」の委員として、砂防堰堤の補強方法の検討に携わられた。令和2年には、令和元年東日本台風により山梨県釜無川右支川大武川において発生した土砂流出をうけて国土交通省が設置した「富士川砂防堰堤構造に関する検討会」の委員として、被災した鋼製透過型砂防堰堤の対応方針の検討に携われ、砂防事業の推進、発展に尽力された。 |
| 岐阜県 | 木村 正信 (岐阜大学名誉教授) | (3) 土砂災害防止思想の普及 (7) 研究、発明 | <ul style="list-style-type: none"> ●岐阜大学において、永年にわたり砂防学・森林保全学を研究し土砂災害に関わる研究業績を上げるとともに、国土交通省や岐阜県が設置した土砂災害に関する各種委員会等に数多く参加し、卓越した技術力と経験に基づき、技術的・学術的な面からの確かな助言、指導を行う等、国と県の砂防行政において多大な功績をあげられた。 ●「岐阜県さぼう遊学館」の砂防学習指導員として、岐阜県の砂防事業の歴史を通じ、土砂災害対策の重要性の伝授や防災啓発に尽力されるとともに、岐阜県砂防ボランティア協会員として、西濃地域を中心に土砂災害防止施設の点検に参加し、技術的な助言等を通じて、技術の伝授に尽力されるとともに、砂防行政の若手技術職員を対象とした砂防事業の現地研修会では講師を務め、技術者の育成にも尽力された。 ●各種シンポジウムや会議において基調講演を行うとともに、養老山地を中心に治山治水の歴史を通じて、土砂災害防止に対する普及に向け、様々なメディアで活躍されている。 ●学術関係では、砂防学会、日本森林学会、日本緑化工学会等に所属し、砂防学会インタープリメント委員会委員長、砂防学会理事等を歴任する等、学会の発展、国際交流に尽力された。 |
| 奈良県 | 太田 好紀 (前五條市長) | (4) 土砂災害防止対策事業の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ●平成23年9月に紀伊半島大水害が発生した際、素早く五條市災害対策本部を設置し、防災無線を通じて住民への避難を呼びかける等、迅速に対応された。さらに、清水地区において大規模斜面崩壊が発生したことにより、すぐに奈良県知事に自衛隊の派遣を要請し、自らも被災地に赴き被災者救援活動に尽力された。 ●被災箇所の早期復旧と砂防事業の重要性を提言するにあたり、奈良県、和歌山県、三重県内の17市町村で構成する、紀伊山地の砂防事業の促進と継続を求める期成同盟会を平成26年8月に立ち上げ、その会長として国への要望活動を実施された。同年には、近畿直轄砂防事業促進同盟連絡会に加盟し、更なる砂防事業の促進を訴えられた。 ●要望活動の尽力により、紀伊山地砂防事務所は新たに紀伊山系砂防事務所として存続することとなり、現在も直轄砂防事業が進められている。 ●平成29年8月、上記の同盟会解散に伴い、同年11月に紀伊山系砂防事業促進期成同盟会を設立し、設立から令和5年4月まで会長として、砂防事業の促進に多大な貢献を果たされた。 |